

清の繁栄

- 1) 北方の脅威が消え、北方防衛の負担が消滅し重税が撤廃された。なにしろ「北方の脅威」自身が支配者となったのだから。
- 2) 明は初期には倭寇対策もあって、民間人の海洋貿易や海上交通を禁止 (海禁) した。清もこの原則を受け継ぎ、台湾で抵抗を続ける鄭氏の収入源を断つためにも強力な海禁を行った。貿易・渡航禁止どころか、沿岸部に住むのも禁止 (1661遷界令) して内陸部に強制移住させている。しかし、銀不足は深刻であり、台湾併合 (1683年) 後、1684年には海禁を解除した。再び海洋貿易は発展し、生糸、陶磁器、茶など中国産品は飛ぶように売れ、【1: 】かきょうやポルトガル・スペインの商人が代金を【2: 】で支払ったので大量の銀が中国に持ち込まれた。日本産の銀は16~17世紀がピークでその後衰退。
高級な輸出品も生産された。例えば綿布 (松江)、生糸 (湖州)、絹織物 (蘇州)、陶磁器 (景德鎮)、もちろん各地の茶も。農村には問屋制家内工業が行われ、地主や官僚が問屋に資金を提供した。高温で焼く磁器の生産が可能になるのは日本では17世紀、ヨーロッパでは18世紀である。
- 3) 貨幣経済の発展で、税の銀納化・簡略化の流れは、明代には**一条鞭法**となったが、清では18世紀に、丁銀 (人頭税) を地銀 (土地税) に組み入れる※【3: 】が採用され、丁銀は廃止された。これで、国家は農家族を直接把握する意味が薄れ徴税は大幅に合理化された。
※ 康熙帝は1711年、在位50周年を記念して1711年以降に増加する人丁 (盛世滋生人丁) には人丁を免除した。これによって丁銀を地銀に組み込むことが可能となった。これを**盛世滋生人丁の実施**と称し1713年施行。 11W
- 4) 稲作技術の進歩、品種改良で二期作、三期作が普及。綿花生産、養蚕も盛んになる。アメリカ大陸から伝来したトウモロコシ、サツマイモは荒地や山間部でも栽培可能で、山間部や辺境地帯での開拓が進み、**耕地面積は明代のなんと2倍に達した**。17~18世紀には、東北 (満州) や華中・華南の山間部、内モンゴル、台湾への移住と開拓が進んだが、それでも人口増加には追いつけず、**福建・広東など沿岸部の住民が東南アジア方面に (禁令に違反して) 移住し、【4: 】**のもととなり、**漢人の居住圏は著しく拡大した**。
- 5) 明代以来の朝貢・冊封は維持された。1684年、海禁は解除され翌年広州など4カ所に明代までの市舶司に代えて**海関**が置かれた。乾隆帝は、1757年、ヨーロッパ船との貿易を【5: 】一港に限定し、【6: 】(コホン広東十三行) という特許商人組合に独占的に取り扱わせた。これは南京条約(1842)まで継続。ロシア、朝鮮との貿易は、陸上の国境で行われた。
- 6) 経営能力を高めた小作農 (佃戸) は高額小作料に反対して各地で**抗租**。明末同様、**抗糧、民変、奴変**も起きた。

東西交流の発展と宣教師の活動 それぞれの分野の立派な専門家であるが本業はあくまでイエズス会の宣教師!

- 1) **明の時代** 16世紀なかごろから、【7: 】の宣教師が中国にやってきた。
イエズス会の宣教師はヨーロッパの新奇な学問・技術を布教の道具にした。詳しくはNo.82参照
 - ①【8: 】(Matteo Ricci 伊 1552-1610 利瑪竇) イエズス会最初の中国伝道者 (万暦帝の時代)
「**坤輿万国全図**」を制作 地球球体説に基づく漢訳版世界地図。6枚1組。『幾何原本』を中国語訳
 - ②【9: 】(Adam Schall 独 1591-1666 湯若望) 明末に入国、滞在中に清になった。
明末に徐光啓と『**崇禎曆書**』(清で時憲曆として実施) を作成。No.78 を参照せよ。清初までは『**大統曆**』。
- 2) **清の時代**のイエズス会宣教師たち。
 - ②【9: 】(Adam Schall 独 1591-1666 湯若望) 欽天監正 (天文台長官) として活躍
1645年、『**時憲曆**』を献上。なお、元代を除けば正式な官吏となった最初の西洋人。嫉妬を買い、讒言により失脚。
 - ③【10: 】(Verbiest ベルギー 1623-88 南懷仁) 砲術・天文・暦法・地理学 ②を助けて布教
 - ④【11: 】(Bouvet 仏 1656-1730 白進/白晋) 数学・天文 『**康熙帝伝**』の著者
 - ⑤レジス (Régis 仏 1663-1738 雷孝思) 数学・天文
④ブーヴェが⑤レジスとともに、康熙帝の命で作成した「**皇輿全覽図**」こうよぜんらんずは**中国最初の実測地図**。10年かけて中国全土で大規模な測量を実施した。
 - ⑥【12: 】(Castiglione 伊 1688-1766 郎世寧) 洋画技法
『**馬上の乾隆帝**』人物を⑥が描き背景を中国画家が描いた。この絵を見ておこう。
「**円明園**」(バロック風、北京郊外) の設計者としても有名
「**円明園**」は**アロー戦争**(1856-60)で破壊された。その無惨な姿の写真を見ておこう。
『**四庫全書**』はこの時失われた。大砲を動かすとき地面に敷きつめられたとも伝えられる。
優秀な宣教師たちも科学や技術を軽視する士大夫層、郷紳の世界観を変えることは困難だった。彼らの持ち帰った情報でヨーロッパに「中国学」が成立。その中心は**フランス**。 06M
- 3) いわゆる【13: 】で**てんれいもんたい**が起きた。
典礼とは、孔子の崇拜、祖先の祭祀など**中国の伝統的儀礼**のこと。イエズス会の宣教師は布教のために、信者が典礼に参加することを認めていた。カトリックの他派の修道会等がこれをローマ教皇に告訴し、1704年、教皇クレメンス11世は信者の典礼参加を禁止した。**康熙帝**は典礼を否認する派の宣教師の入国を禁止。イエズス会以外の布教を禁じた。1724年、**雍正帝**は、**キリスト教の布教を全面禁止**した。
とは言っても、宣教師の国外追放すら行わず、弾圧は緩かったので、日本のように殉教者は出なかった。
宣教師はそれまで同様皇帝に仕えていたが、布教活動は休止状態に。
- 4) 明・清期に中国で活躍した宣教師たちは、中国の文化をヨーロッパに伝えた。17世紀後半から19世紀初めに、陶磁器・家具・宮殿の壁などに中国風のデザインを取り入れる中国趣味が流行した。これを**シノワズリ**と言う。

清の文化と思想

- 1) 征服王朝である清朝は、支配の正当性を儒学（朱子学）によって裏付けようとした。
中国文化を尊重し、代表的な儒学学派の【14: 】を官学として採用。儒学者を厚遇し、様々な編纂事業を行わせた。このような政策は漢人官僚・郷紳・地主たちの支持を受けた。
 - ①『【15: 】』こうきじてん 字典と書くことに注意 康熙帝が編纂を命じた。
30人の学者が作った12集、4.2万文字の漢字字書。わが国の漢和辞典の原型はこれ。
 - ②『【16: 】』ここんとしょしゅうせい 康熙帝が命じ雍正帝時代に完成した。1万巻。
中国史上最大の類書（百科事典）。類書とは、あらゆる領域の各種書籍からの引用テキスト・図版を一定の規則で配列・編集し、検索可能にしたもの。現代風に言えば、検索可能なコピー集。コピーした底本が散逸（消滅）しても、その大意が再現できるほど十分に配慮深く引用している例もある。
 - ③『【17: 】』しこぜんしょ 乾隆帝の命で編集され、経・史・子・集の4部（四庫）。
古今の書物を集め分類して編集した一大叢書。3462種、79,582巻 写本は7組。
叢書とは、現代風に言えば、様々な書物を丸ごと、統一されたフォーマットに流し込んで再編集したもの。
- 2) 古い書籍の保存につとめたが、清朝に都合の悪い部分は削除させ、禁書目録を作った。
- 3) 漢人らの反清思想をきびしく取り締まった。禁書（特に乾隆帝）も行ったがそれ以上のこともした！
処刑を含む思想弾圧……例 【18: 】もんじのごく 康熙・雍正・乾隆を通じて。
反清・反清的な文書や文字を書いた者を極刑にした。
- 4) 【19: 】(こうしょうがく)の基礎
明末清初の黄宗羲 こうそうぎ、顧炎武 こえんぶ、王夫之 おうふしの3学者※から、儒教の経書を明らかにする際、確実な文献に典拠を求める実証的な学問が興じた。しかし清朝の思想統制のため実用の学としての性格は失われ、純学術的な古典研究へと性格を変え、社会変革につながるような新しい思想の展開には結びつかなかった。
※3人とも清朝に仕えず。明王朝の歴史書編纂を依頼されたが断った。
主著は、黄宗羲『明夷待訪録』、顧炎武（考証学の祖）『日知録』、王夫之『說通鑑論』どくつがらんろん
考証学の全盛期は乾隆・嘉慶年間(1736～1820)で、「乾嘉けんかの学」とも呼ばれた。13専修大（誤選択肢として）
- 5) 考証学に飽きたらず、実践的な経世実用を主張する公羊学 こうがくが興り、清末には政治革新を主張して盛んになった。
「変法自強」を主張した康有為 1858-1927 は有名。
- 6) 考証学の展開……厳密な史料批判の方法は歴史学の発展をもたらした。
 - 【20: 】1728-1804 せんたいきん 清代考証学の大家。史学研究法を樹立。
 - 【21: 】1735-1815 だんぎよくさい 清代考証学の大家。文字・音韻の研究。
- 7) 安定した社会を反映し、洗練された文学作品が生まれ、日本にも影響を与えた。清朝を痛烈に批判する作品もあった。
 - 『【22: 】』こうろうむ 長編小説 貴族家庭の栄枯盛衰を描く
 - 『【23: 】』じゅりんがいし 科挙を風刺、官吏の腐敗を暴く
 - 『【24: 】』りょうさいしい 民間説話などから古今の怪奇物語を集めた短編怪異小説集。
- 8) 安定した社会を反映し、洗練された美術・工芸作品が造られた。江西省景德镇の位置をチェックせよ。
 - ①「五彩人物文大盤」 景德镇産 「五彩」とは赤絵のことである。作例写真を参照せよ。
染付と赤絵についてはNo.82参照。明を滅ぼしたとさんざんな悪評の万暦帝は多趣味で、特に陶芸には凝っていた。
彼が拘ったのは「万暦赤絵」である。
 - ②歐風画壺 景德镇などの産。西洋技術をとり入れた「粉彩 ふんさい」による。作例写真を参照せよ。

2010 駒澤大学 <抜粋>

……明清交替期に活躍した宣教師としては、ドイツ出身の【1】がいる。天文学に優れたこの人物は北京に入ると、1634年にヨーロッパ天文学の百科事典とも称される『崇禎暦書』を【2】らとともに完成させた。【3】が率いる反乱軍が北京を占領し、崇禎帝が自殺して明が滅びるのは、その10年後のことである。その直後、長城の東端に位置する関門【4】を抜け北京に入城した順治帝は、【1】を国立天文气象台（欽天監）の長官に任命した。その後、19世紀前半にいたるまで、そのポストにはヨーロッパ人宣教師が任命されているように、王朝が交替しても、彼らの技能が持つ魅力は変わらなかった。また17世紀後半、清とロシアとの間で締結される条約の交渉過程では、イエズス会士らが様々な情報提供を行なうなどして、清朝を有利に導く働きがあったと言われる。

しかしながらその後、カトリック王国のポルトガル・スペインがアジアに獲得していた拠点や植民地がオランダやイギリスによって徐々に奪われていき、さらには18世紀の中頃、清朝が対欧米貿易港を【5】一港に限定したこともあり、ヨーロッパ人宣教師が中国に入ることが困難になった。19世紀後半には、【6】の際、北京に入った英仏連合軍が、イエズス会士がその設計にも参画した円明園を破壊している。

空欄1～6に適語を記せ（原問は記号選択式）。また、下線部の条約名を記せ。

1:アダム=シャルル 2:徐光啓 3:李自成 4:山海関 5:広州 6:アロー戦争 下線部の条約:ネルチンスク条約